

インフラ老朽化対策

◆山梨県の橋梁は1960年代後半から1970年代に建設されたものが多く、老朽化が進行しており、補修等計画的な対策が必要

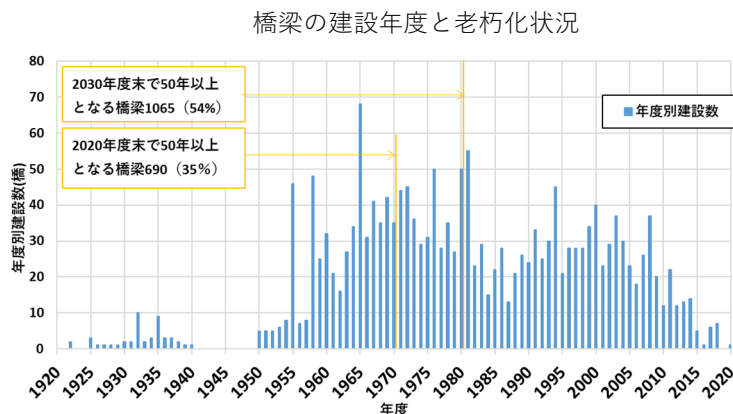
5年に一回の法定点検により橋梁の損傷を把握し予防保全型の対策を実施するため、メンテナンスサイクルを確立し橋梁の長寿命化を推進

早期に補修が必要な橋梁139橋に対し、H30年度～R3年度に130橋の補修に着手し、H30年度～R3年度に117箇所（橋）の補修が完了

□現状課題

■建設後50年以上となる橋
 2020年度末 35%
 ↓
 2030年度末 54%

■定期的な点検と補修等によりメンテナンスサイクルを確立し、適切な維持管理で橋梁を長寿命化



□点検結果と対策実績

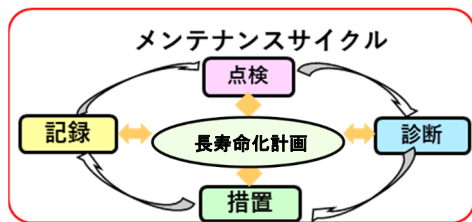
■早期補修が必要橋梁

○要対策橋梁数

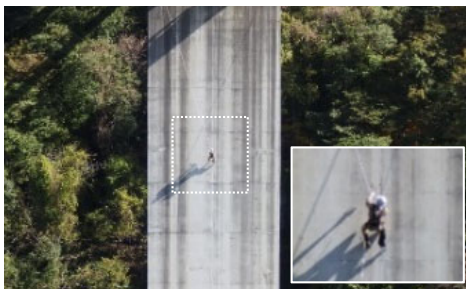
H26～H30に実施した一巡目の法定点検の結果、早期に補修が必要（Ⅲ判定）な橋梁
139橋

○H30年度～R3年度に補修着手 **130橋**

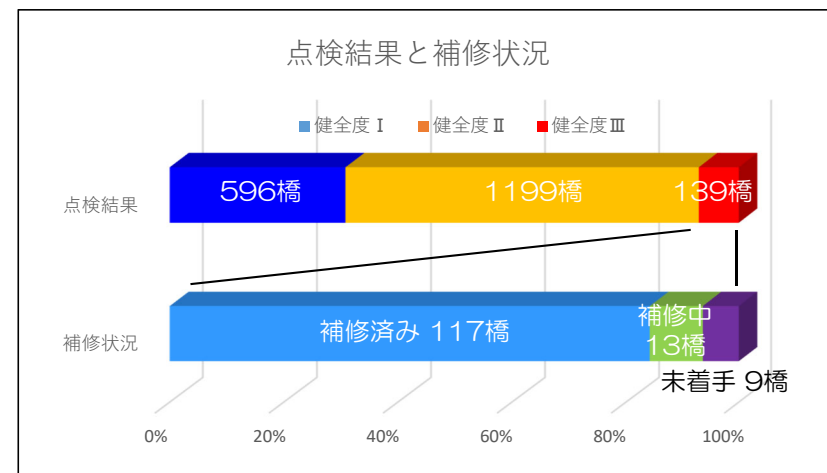
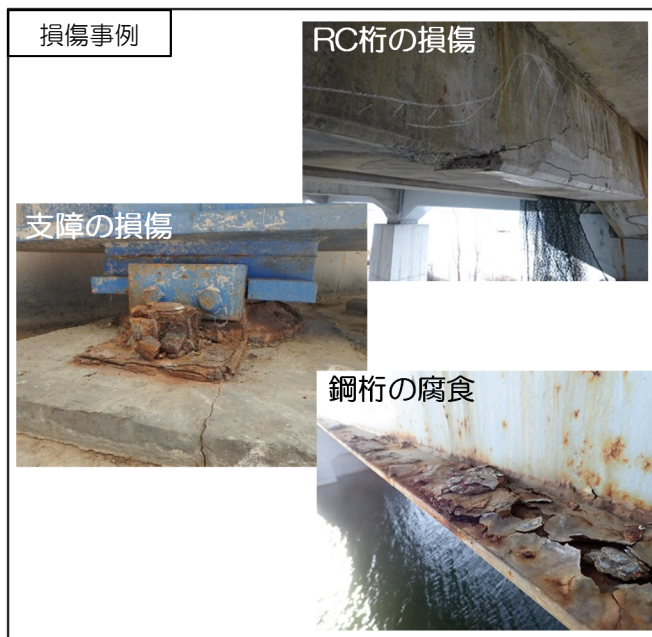
○H30年度～R3年度に補修が完了 **117橋**



北杜ハヶ岳公園線 ハヶ岳高原大橋



ロープアクセスによる点検状況



※未着手の9橋は架け替え等を予定しており、既に設計着手済み

インフラの老朽化対策（ダム）

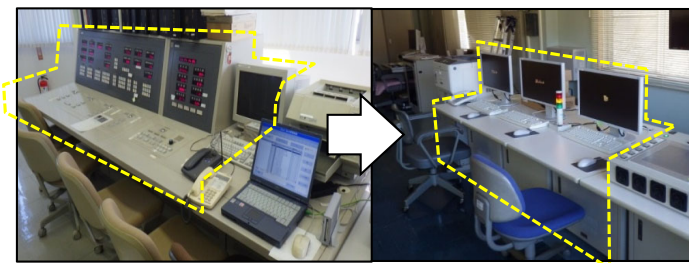
◆建設後長期間が経過するダムにおいて、洪水調節等に必要な機能を適切に発揮し、維持管理・更新費用を抑制することが必要

長寿命化計画（H26.3策定）により塩川ダム外2ダムで計画的に対策を実施
 大規模な機器更新や修繕などの集中的な老朽化対策により、予防保全型インフラメンテナンスサイクルを実現
 5か年加速化対策の活用により、維持管理の高度化・効率化を図る

○ダムコントロールシステム

機能：データ収集、計算、設備制御を行うシステム

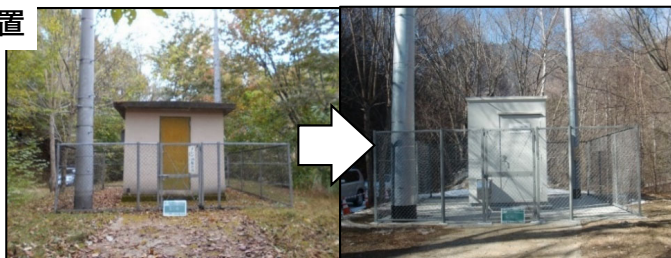
対策効果：適切なダム運用システムのスリム化
信頼性の向上



○雨量局・水位局・放流警報装置

機能：雨量や水位データの観測・転送や放流時、河川危険周知の警報を行う装置

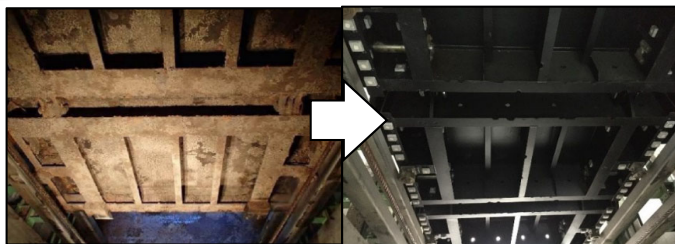
対策効果：正確なデータの観測・転送。
確実な放流警報



○放流・取水設備

機能：ダム下流へ水を流す設備

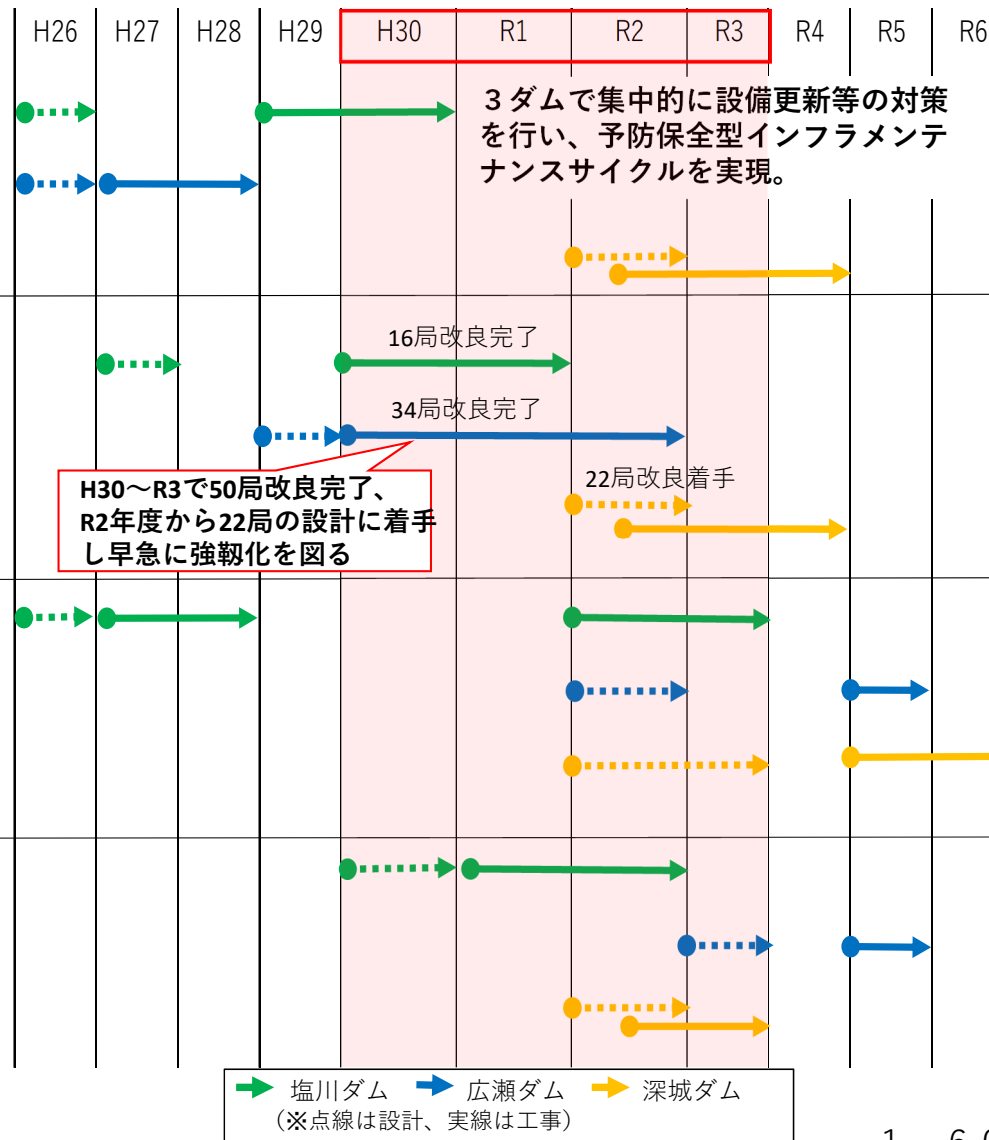
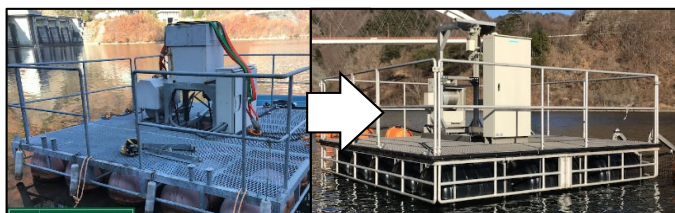
対策効果：ゲート強度回復
錆・腐食防止
適切な放流



○水質・堤体・気象観測設備

機能：ダム湖の水質、堤体の変位、気象データを観測する設備

対策効果：正確なデータの観測
適切なダム運用

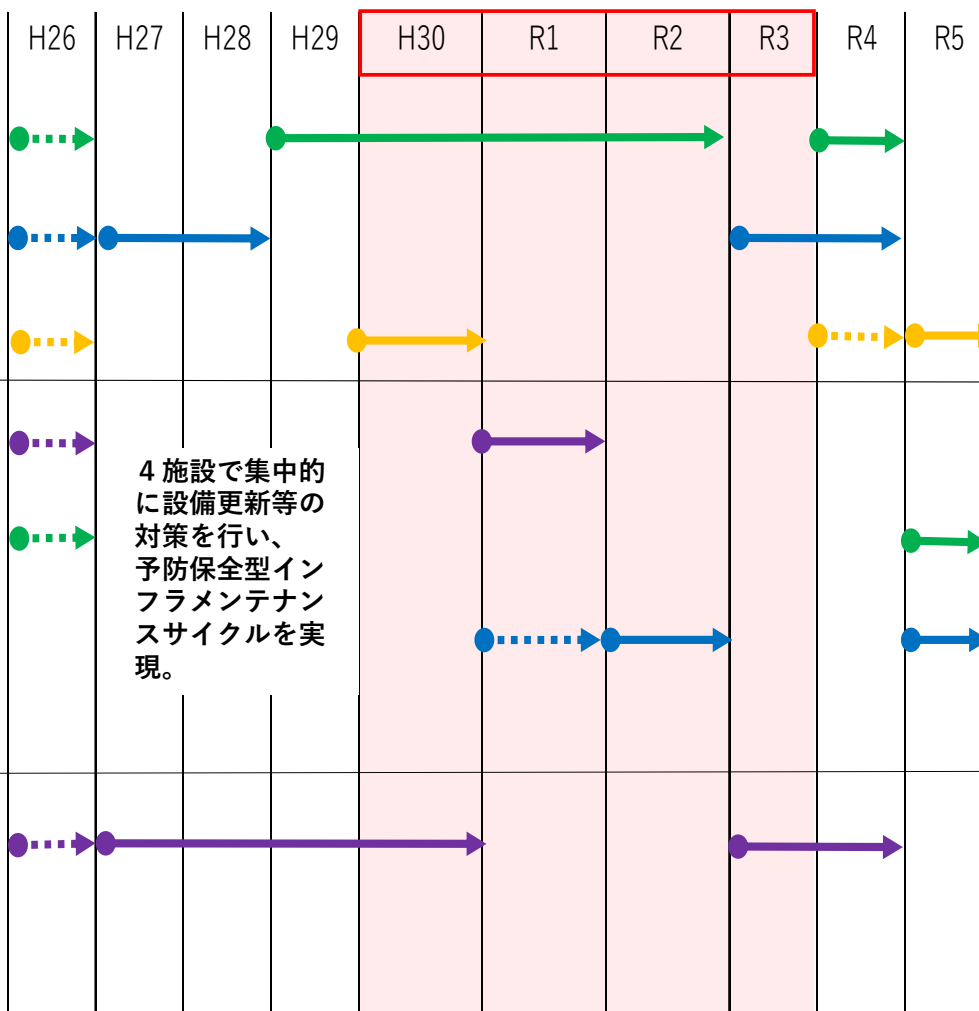


◆建設後長期間が経過する河川管理施設において、洪水時に必要な機能を適切に発揮し、維持管理・更新費用を抑制することが必要

長寿命化計画（H26.3策定）により五明川排水機場外3施設で計画的に対策を実施
 大規模な機器更新や修繕などの集中的な老朽化対策により、予防保全型インフラメンテナンスサイクルを実現
 5か年加速化対策の活用により、維持管理の高度化・効率化を図る

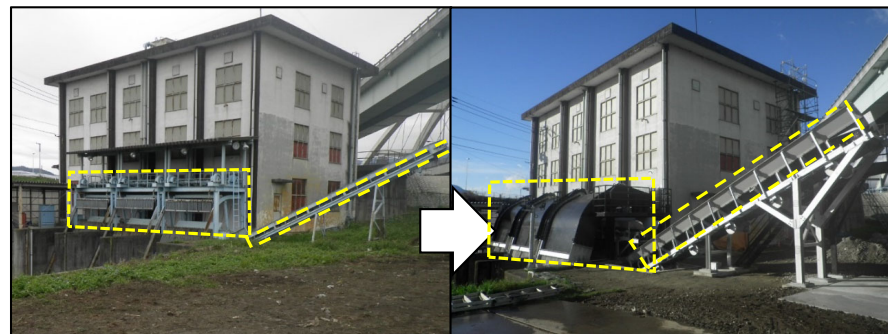
○水門修繕、水密ゴム・ワイヤーロープ交換、付帯設備更新【横川伏越】

錆・腐食の進行による水門の不作動等を未然に防止し、延命化！



○除じん機、付帯設備更新【五明川排水機場】

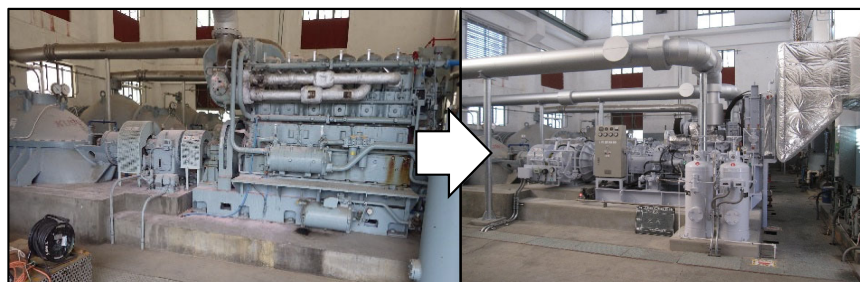
経年劣化により除じん機を更新。不作動によるゴミ詰まりを未然に回避し、排水不良を防止！



4施設で集中的に設備更新等の対策を行い、予防保全型インフラメンテナンスサイクルを実現。

○水中ポンプ、付帯設備更新【五明川排水機場】

経年劣化により水中ポンプを更新。不作動を未然に回避し、浸水被害を防止！



→ 五明川排水機場 → 横川伏越・水門 → 渋川伏越・水門 → 四分川水門
 (※点線は設計、実線は工事)

